

・ 土釜薬師



土釜薬師は安徳帝の御安泰を祈り、警備の要になっていた所ともいわれる。

【院の墓】

平氏の一族が長門の壇ノ浦で滅んでしまったという知らせを聞いた切山の一族は嘆き悲しみ、院の墓



安徳帝の御衣と御念持仏をここに

に埋めて仮の御陵にしたといわれる。切山の一族はしばしば西

の海の瀬戸内海が見えるここに集まり、礼拝したといわれる。

平成十一年四月には由来碑を建立。

【生き木の地蔵】

・ 生木地蔵



中谷の谷間にあり、生き木のカゴノキに彫られている。弘法大使の生きた像ともいわれ、注目されている。二百五十年前に彫られたという像が腐食したため昭和五十四年に復元され、NHKテレビで全国に紹介された。平成十四年十一月には二十三

年振りに修復を行った。

【地神宮と

五士の神社】

五士はやがて切山に定住するようになり、切山の小集落には五士のお墓があり、それらが地神宮としても祭られていて、五士それぞれの神社となっている。春秋のお社日には先祖を供養するお祭りが集落ごとに行われている。

【熊野権現社】

安徳天皇を守護した五士の一行が阿波から道なき道を山伝いに伊予の切山にたどりつく途中、下谷の手前の日替谷で遭難しかかったが、伊藤が背負っていた熊野権現に祈念したところ、たちまち光明が輝き無事切山の土釜に着けたという。

・ 熊野権現社



そこでここに社を建てたという。

【刀石】

下谷八幡宮下の宮にある一五メートルの自然石であるが、左側の縁にそって刀を置いたようなミゾがある。

切山に安徳帝が潜入した時、神器のひとつである宝剣をこの石の上に置いた時に生じた跡といわれている。この刀石が朝日新聞の「石の声」で全国に紹介された。又上の宮の石橋の裏には平家侍の足跡といわれるくぼみがある。平成十五年の台風の洪水で出土した。